



新型コロナウイルスの感染者数が落ち着いて、鎌倉にも観光客が戻りつつあります。訪問介護事業者としては、第6波への動向をみながら依然として3密を意識し、少しホッとしてるけど気が休まらない日々だと思います。

第6回茶の間会議では、「コロナ陽性者が出たら事業所としてどうする？」をテーマに意見交換しました。

マスクにフェイスガードをしての入浴介助は、スタッフにとって息苦しく、体力も消耗します。でも、入浴中にご利用者はマスクを外すため濃厚接触者になる確率は買い物やお掃除の訪問内容に比べ高くなります。

「マスクだけでも大丈夫かな？」と目を守るフェイスガードを外したいところですが予防という観点から徹底するのは大変だけれど、しなければならぬ自分を守る大切な手段であることを再認識しました。

スタッフ全員が同じ意識で対応したいところですが難しいのも現状にあります。都度スタッフに説明し理解していただき、第6波を最小限にできたらいいですね。

第6波前の今の私たちの行動がとても重要です。鎌倉市の訪問介護事業者の日々の努力が報われるよう、意見交換し連携し、万が一の事態にはお互い力を合わせ協力できる関係性をつくりたいと思っています。

## 次回の 第7回 茶の間 Web会議

令和3年12月14日(火) 15:00 ~ 16:00

議題：BCP(BCPとは・地域との連携) その他事業所紹介など

### (^o^)現場で役立つ会話術(^o^)

### ～お風呂誘導編～



入浴は体を清潔に保つために必要なほか、血行の改善からリラックス効果も得られるため、心身の健康維持には欠かせません。しかし、さまざまな理由で入浴を嫌がる利用者は多いものです。入浴を足浴や清拭に切り替え信頼関係を築くことも大切です。時間をずらしたり、ほかの介護者に誘ってもらおうなどの工夫をしてみましょう。

「お風呂の準備ができましたので、入りませんか？」

NG：「お風呂に入ってください」

「今日は寒かったですね。お風呂に入って体を温めましょう」

NG：「寒い日にお風呂に入らないでどうするの？」

「足だけでもお湯につかってみませんか？体も拭きますよ」

NG：「入浴しないなら、勝手にしてください」

「ご自宅の浴室で転んだら危ないので、こちらで入浴するように息子さんから頼まれました」

NG：「お風呂に入れないと、私が息子さんに怒られます」

決して無理強いせず  
嫌がる原因を探ろう

